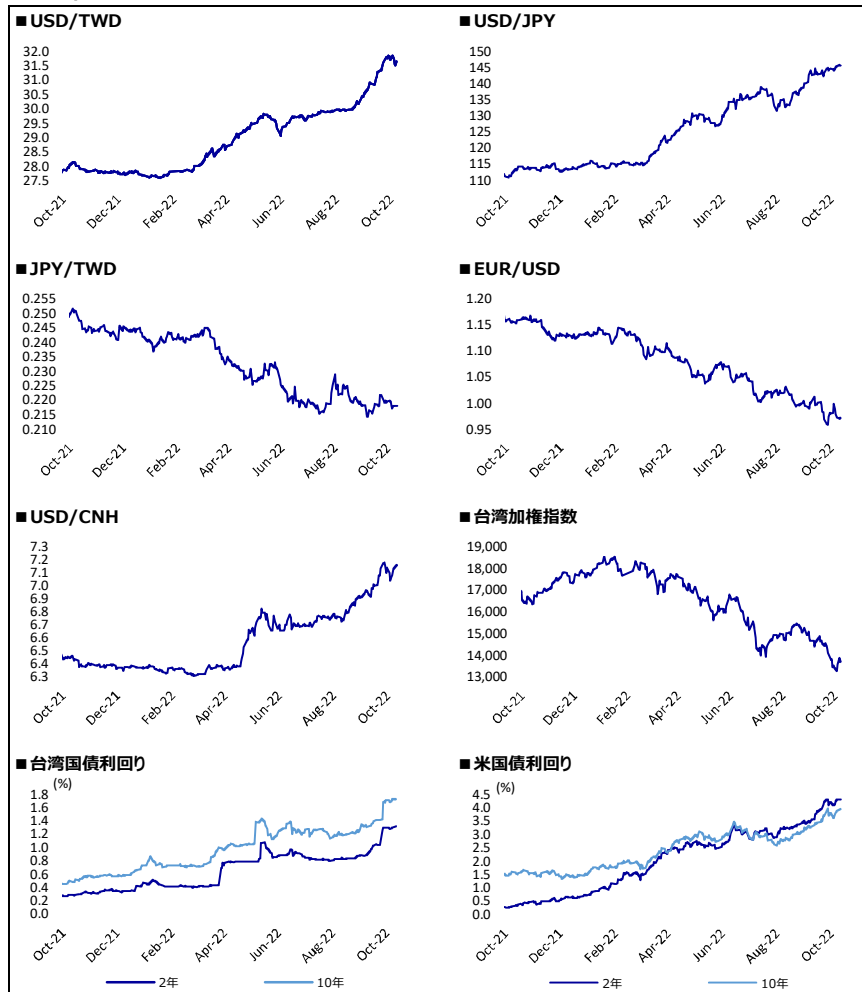


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初10/3は31.790でオープン後、前週の米株式市場の下落を受け、台湾株が下落すると海外への資金送金が増加し、一時31.886をつけた。10/4は米9月ISM製造業景気指数が予想を下回ったことから金融引き締めに対する警戒感が緩み、米株が反発したことを受けて台湾株も上昇し、台湾ドル買いが優勢に。また、RBAが予想より小幅な0.25%の利上げを決定したことも金融引き締め観測を後退させ、米長期金利が低下したこともアジア通貨が買い戻される材料となり、ドル台湾ドルは31.74付近まで下落。10/5も台湾株が堅調に推移し、31.60を割り込み、10/6には2週間ぶりに31.5を下回り、一時31.485まで下落。しかし、下値付近では輸入企業のドル買いが入り、31.5台に戻された。10/7は台湾株が反発するとドル台湾ドルは31.68付近まで戻され、最終的に先週比0.2%ドル安台湾ドル高の31.668で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は50.0億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初10/3は144.57でオープン後、特段材料はなかったものの、ドルが買われ為替介入後の高値を更新したが、介入への警戒感からすぐに144円台に戻した。その後は英国政府が減税計画を撤廃すると発表したことから欧州金利の低下につられて米金利も低下すると、ドル売りが優勢に。米9月ISM製造業景気指数が予想を下回ったこともあり、ドル円は一時144円台前半まで下落。10/4は144円台後半まで戻すも、対ユーロやボンドのドル売りが強まり、ドル円も下落し、144円を割り込み143円台後半まで下落。10/5は前日の流れを受けて一時143.53まで下落するも、米金利が上昇すると144円台に戻し、米9月ISM非製造業景気指数が予想を上回ると144円台後半まで上昇。10/6はカシュカリ・ミネアポリス連銀総裁からタカ派姿勢維持と捉えられる発言があったことから米金利が上昇するとドル円も上昇し、一時145円台に乗せた。10/7は米雇用統計が発表されると、予想より非農業部門雇用者数は上回り、失業率は下回ったことから、145円台に上昇。引けにかけてじりじりと上昇し一時145.44をつけ、最終的に先週比0.5%ドル高円安の145.41で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.600-32.200
先週は金融引き締めが和らぐとのムードがあったものの、米雇用統計を受けて再び警戒感が高まっている。今週は米CPIの発表を控えており、内容次第ではあるがドル高が続けば、32台を試すであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：143.00-147.00
今週は米CPIの発表を控えている。市場予想では前月より低下することが見込まれているが、前年同月比+8%台は高水準であり、大幅に低下しない限りはFRBは引き締め姿勢を変えないであろう。為替介入が心理的なハードルにはなるものの、金融引き締めへの警戒感からドル円は上値を試していく展開を見込む。

今週の予定

10/10 (MON)	台湾、日本、米国休場
10/11 (TUE)	
10/12 (WED)	米9月PPI、FOMC議事要旨
10/13 (THU)	米9月CPI
10/14 (FRI)	米9月小売売上高、米10月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。